

イマヌエル教報

2019. 3

1947年7月1日第三種郵便物認可 2019年3月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.872

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

ベテルに上って行こう

国内教会局長 岩上 祝仁



「私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこに、苦難の日に私に答え、私が歩んだ道とともにいてくださった神に、祭壇を築こう。」

（創世記三五章3節）

今年も年会を迎えました。群れ全体の新しい方針が打ち出されて、新たな任命を全牧師が受けて出発をする大切な営みです。お祈りください。

ここでベテルに上るようにヤコブに命ぜられたのは神でした。（1節）ヤコブとその一家は悲劇的事件を通して絶体絶命の危機に陥った時、神の恵みの招きとして「ベテル」へ行くように言われたのです。人の危機は神の好機です。私たちの信仰を整えるために、神は悪状況さえも用いられるお方です。恵みは状況に関わらず神の最善へ人を導くものです。私たちの教団や教会を取り巻く状況は決して良いものではないかもしれませんが、だからこそ主はベテルへと私たちを招いておられるのです。

ベテルとは、ヤコブにとって信仰の原点です。神の祝福を得るため、父と兄を騙したヤコブは、家にいらなくなると一人野宿したのがベテルです。ベテルは信仰自立の場所でした。ヤコブはそこで神と出会い、信仰によってその後の生涯を歩むスタート地点としたのです。私たちにも、それぞれの信仰の原体験と呼べるものを神は与えておられます。そこに立ち戻る時、苦難の歩みであったとしても、私たちは「私が歩んだ道ともにいて」下さった主を認め、信仰の歩みを恵みと

して捉え直すことができるのです。神の愛を知り、キリストの十字架の救いを体験した、信仰の原点に私たちが立ち返る時、キリストへの愛と喜びが新しくされます。初めの日から神は変わらずに私たちを導いて、守ってくださった事実を気づかせてくださるはず

です。最後に、ベテルでヤコブがすることは「祭壇」を築くことでした。主の民として主を礼拝することが意味されています。最初のベテルはヤコブ個人の経験でした。でも、今回は違います。ヤコブの群れの全員が主を礼拝するのです。この時ヤコブは自分の家のものたちに「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身をきよめ、衣を着替えなさい。」と偶像礼拝、この世的なものとの決別を求めます。神の民にふさわしいものとして、離れるべきものから離れ、持つていけないこの世に属することを土に埋めるのです。ヤコブ自身が霊的に整えられるだけでなく、神の家族全体が主にふさわしいものへと整えられる必要があります。

私たちがまた、キリスト者として、キリスト以外のものにより頼まないという信仰の明確さを打ち出しましょう。そして感謝と信仰、献身をもって神を礼拝し、さらに前進するのです。インマヌエルの群れもまた主からベテルへの招きを受けて、ベテルに上り、主イエスに礼拝を捧げます。主にふれていただいで、霊的刷新の御業が群れ全体になされますように。

目次

- ベテルに上って行こう……岩上祝仁……1
- 年會に臨む私たち、東京教区デー、同窓會から……2
- 教團運営委員會から、近畿教区研修會……3
- 海外トピックス、国内教會局、eラーニング……4
- 南日本ブロック近況、東北ユースキャンプ……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神學院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

第74次年会へ……

年會に臨む私たち

「心を引き裂く」信仰で
主の御前に集まる

代表 内山 勝

できていると思う人は、決して心を引き裂くことほしくないからです。このままでいけないと自覚している人、心の渇いている人だけが自分の心を引き裂くのです。誰かに指摘されたからではありません。聖霊が語られたからです。年会の3回の聖会が、そのような霊的刷新の時となりますように。

また、年会は、新しい気づきを与えられる機会でもあります。2日目の研修では、「高齢化の問題」と、「伝道について」の講演・発題があります。関係者の尊いご労に感謝します。

聴くお互いが、遜って真摯に自分の課題として向き合うことによつて、主が何らかの気づきを与えてくださいますように。そして、これからの歩みへの具体的なヒントが与えられますように。主から新しい気力と勇気が与えられる時となりますように。

「しかし、今でも——主のことば——心のすべてをもって、断食と涙と嘆きをもって、わたしのものに帰れ。」衣ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深い。怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわいを思い直してください。(ヨエル二・12、13)

年会は、人の前ではなく、神さまの前に出る大切な機会です。神さまの前に出るので、肩書きは関係ありません。年齢や性別も関係ありません。昨年の実績も関係ありません。人からどんな評価を受けているかも、関係ありません。

神さまのもとに出て行くのに必要なのは、ただ「心を引き裂く」ことだけです。心と言っても、他人の心を引き裂くものではありません。自分自身の心を引き裂くのです。それは決して簡単なことではありません。自分は完璧だ。良く

主ご自身が、年会を豊かに祝福して導いてくださいますように。

東京教区教区デー報告

旧約の過越の祭と
最後の晩餐の意味
を学びました

武蔵村山教会 岩上敬人

2月11日、東京教区教区デーが中目黒教会で開催されました。午前のCS講習会は柿内ルツ師(ホーリネス教団)を迎えて「過越の祭り」と最後の晩餐」について学びました。ユダヤ教の過越の祝い方、ペサハ(過越し)、マツツア(種なしパン)、セデル(過越し晩餐の式次第)を中心に、最後の晩餐と過越しの食事を比較し、聖餐、受難、十字架の深い意味に目を開かれました。午後は柿内先生の指導の下、種なしパンの調理実習を行いました。その他、CS教師新人研修、撮影講習などの研修や交わりのひと時を持ちました。特に写真のコースではプロカメラマンの河原崎宣吾兄を講師にお迎えしました。(参加者70名)



聖宣神学院同窓会から

5月20日~21日に開催
神学院同窓会による
ホームカミングの恵み

浜松教会 蔦田直毅

今月の「教報」がお手元に届く頃には、参加申し込みのご案内が届いているかと思いますが、聖宣神学院のアラムナイ総会が6年ごとになり、その中間点に同窓生が集まり、リフレッシュと親睦の時、リクリエイト(再創造)の機会を持つとうと、この第2回「ホームカミングデー」を計画いたしました。

開催は今年の5月20、21日の両日。正確には「中間」ではないのですが、それは今年が神学院創立七〇周年に当たるためです。浦和から横浜に移転してから数えても既に半世紀、新しい時代の神学院を体験する機会でもあります。

前回のホームカミングから変わった事は、卒業までに千杯と言われた「おうどん」を頂き、またクリスマス会も行われた、あの旧食堂と旧女子寮が研修棟(ベテル・ハウス)に変わったことでしょうか。すでにYSの全国大会なども開かれますが、新しい神学院に宿泊する体験を実際に味わう機会ともなる

でしょう。建物と同時に、お互いの歩みの再確認とリニューアルの時となることも期待しています。

もう一つは「リターンズ」の体験です。主の召しを頂いて、伝道者生涯の基礎訓練を与えて頂いた場所に「リターン」し、個人の献身を新たにし、共に学んだ方々との交わりに「リターン」して、お互いの励ましを頂く機会ともなります。特に(私もその一人ですが)普段、地方でご奉仕させて頂いている者にとって、教区以外の同窓生や、他教団で労されている先生方とお会いする機会は多くありませんので、恵みの時と期待しています。

そして、前回に続いて「クリスマス・リターンズ」のプログラムも用意されています。私は前回、出席しませんでした。出席された方々から、ここで一番変化を感じた、と伺いました。

加えて、前述の「聖宣神学院創立七〇周年」を記念する式典が計画されています。これは聖宣神学院が主催する集会で、ここだけは一般の方々にもご出席頂けるプログラムとなっています。近隣の信徒の方々でお時間のある方はお出かけください。

卒業生も三世目目に入ってきました。年齢と時代のギャップを感じるこの頃ですが、旧世代のリニューアルだけでなく、新世代の卒業生方にとってもリニューアルの機会となることを願っています。多くのご参加を期待します。

教団運営委員会から……

年会準備のため

拡大の運営委員会

広報 大兼久芳規



一年間の教団運営委員会を覚えてのお祈りをありがとうございます。2月4～5日に年会の準備をする教団運営委員会がもたれたので、ご報告いたします。

教団運営委員会の前に、年会準備祈禱会が開かれ、小川師よりヨハネの黙示録一章から「主イエスの目に映る教会の姿」と「私たちの目に映る主の姿」が語られました。マグダラのマリヤは、主の復活の喜びの日に、一度主を目にはしました。その認識が薄く、すぐ目を離し、現実(墓)を見て嘆いていました。私たちがこの年会を通して、目を転じないほどに主を捉えるものとされたく願います。ひと月後の年会の働きと各担当の備え、1年の締め括りにある各教会のために祈りが積まれた準備祈禱会でした。

〔教務会〕岩上敬人先生が、JEAからの依頼により、総主事として奉仕されることが報告されました。大切な日本の福音派を支える

働きます。

沼津教会は、2年間の準備期間を経て、今年4月より沼津シオン教会(荻野倍弘師、BTC卒)と合流します。新しい営みに主の祝福を祈ります。

〔年会資料〕教会総会を越え、各教会から資料が届き、各部局からの報告もなされ、年会資料が整えられました。1月末の教会総会から2週間という短い期間に、全国教会のデータを集計し、まとめてくださる総務局の事務作業に感謝致します。また年会においても、各局・各部の働きを覚え、祈りたく願います。これらの50ページにわたる年会資料を運営委員会で確認・検討しながらの2日間でした。

今回の年会準備にも信徒運営委員の方々が加わり、信徒局の働きとともに、牧師の側から見た年会準備に加え、信徒の側からの年会に向けての穏健な提言がなされ御名を崇めています。

内山代表よりの報告から「主を喜ぶ教会」への勧めとともに、教会間協力へ提言がなされました。昨年の全国主事会議でも取り上げられましたが、孤立化しやすい各教会が、近隣教会との交わりを深め、分かり合えるお互いとして、何かの時に支え合える関係を築く。このような提言がなされ、主のからだの一部として、つながり合える幸い、尊さを教えられた提言でした。

〔年会研修会〕今年の年会では、2つの研修会がもたれます。ひと

つは、昨年、宣教研究部より出された伝道に関するアンケートを踏まえて、現代の伝道の戦いの傾向とともに、多くの示唆を与えられる方策が集められています。続いて、教会も高齢化の現実が迫っています。介護の現場より具体的な対応策とともに、戦いの中にいる兄弟方への接し方を、昨夏全国主事会でも幸いな講演をいただいた厚生委員長の内村姉から学びます。〔世界宣教局〕今夏8月27日～9月5日、ザンビア宣教訪問団(团长岩上頼子師)を送り出します。医療に関心のある方のご参加をお待ちしています。青年の方々には、教育局から旅行費約30万円の一部を補助する予定です。ぜひ参加をご検討ください。

〔会堂委員会〕昨年2教会で完済がなされ御名を崇めました。他にも返済の戦いを続けておられる教会に、主の祝福を祈ります。

〔神学院〕5月20～21日には、アラムナイのホームカミングデーがもたれ、その中でBTC創立70周年記念式典がもたれます。これからも主は、神学院を働きの人が造り上げる場として用いられます。

数年ぶりの埼玉エックでもたれる年会のため、2019年の指針が浸透しますようにお祈りください。

また年会の前日から、二日間にあたり「若手牧師研修会」がもたれます。教団の使命の継承のために、よき研修の時となりますようお祈りいただければ幸いです。

近畿教区

教会奉仕者研修会報告

教会建設に生きる学び ハラスメントに対する 理解を深める研修会

堺教会 蔦田聡毅

2月11日(月・祝)の終日、大阪伝法教会を会場に、近畿教区の研修会が開催され、教区15教会中14教会から53名の信徒と、21名の牧師、計73名が参加しました。

会場では初めから6、7名毎の小グループに分かれて座り、教会も立場も聖別も年齢層も異なる兄弟と机を並べて、教会内の微妙な課題ではありましたが、真剣に取り組み、有意義な研修の時となりました。

講師は松江教会の南場安正師で、教団人権委員会のメンバーであるだけでなく、保育園の園長として日々労される中で直面する体験やエピソードや体験に裏打ちされた、わかり易く、具体的な指導を頂くことができて感謝しています。

テキストは教団の人権委員会が発行している「聖なる教会を旨として」ハラスメントを題材として」というパンフレットでしたが、必ずしもテキストの中身だけに捕らわれず、具体例を挙げつつ、要

所要所に触れていただきました。様々なハラスメントが起き易い現場として、学校、スポーツ界に続いて、宗教界があげられ、実際私たちが近い教会で起きた悲しい現実の事件には、ショックを受けた方も見受けられました。しかし自分たちとは関係ない事柄ではなく、充分心しなければならぬ課題であること、今取り組んでおかなければならないことに、明確に気づくことが、まず大切でした。

午前は講演中心でしたが、昼食は小グループのままでお弁当を頂き、教区内でも初めて会う方も新しい交わりの機会が与えられ、午後はテキストの想定場面集を題材に、ディスカッションが行われました。話の進みにくさを想定されたのか、最初は20分位話し合ってみましょう、という事でしたが、結局50分後に無理に打ち切らねばならない程に活発な意見交換がなされ、今後の教会建設に生かされていくことが期待されます。



国内教会局から

教会建設の務めに
救霊の御業が進みますように

3月上旬に年會が招集され、3月10日に年會が招集されたのでこの原稿に目を留めてくださっているのは年會開催を前後しての時期ではないかと思ひます。この一年も、主が私たちの手のわざを確かなものとなるようにお祈りいたします



（詩篇九〇・一七）
様々な次元での結実を期待するお互いですが、救われる方々が加えられることが何より祈り求められます。「救いが曖昧になつてい」とある牧師が迫られたとき、彼は間髪入れずに「いや具体的だ。洗礼を授けることだ」と返答したそうです。無論前提として認罪に始まり、悔い改め、新生な

どのみわざがなされることがありすが、聖霊の促しに信仰をもつて応答をする方々が教会に結びつく一年となりますように。フィラデルフィアの教会の前にだれも閉じることができない門を開いて下さった主が、私たちの教会の門も大きく開いて下さるよう祈ります（ヨハネ一〇・九）。

■教皇が11月訪日を明らかに
教皇フランシスコは1月23日、「11月に日本を訪問する」と述べた。カトリック教会のワールドユースデーのためにパナマに向かう特別機の機内で、共同通信記者の質問に、教皇は「11月に日本に行く。心の準備をしてください」と答えた。教皇は11月下旬に5日間前後の日程で日本を訪れる予定。被爆地の広島・長崎を訪問し被爆者に祈りをささげるとしているほか、東日本大震災の被災地への訪問が可能かどうか検討しているという。

■比南部ホロ島の大聖堂で2度爆発、19人死亡
フィリピン南部ミンダナオ地方のホロ島にあるカトリック教会の大聖堂で1月27日、爆発が2回あ

バチカン（ローマ教皇庁）のアントニオ・ジソッティ暫定広報局長は「日本司牧訪問は、計画の段階にある。教皇がすでに他の機会でも話されたように、日本を訪れたいとのご自身の望みは大きい」と記者たちに説明した。



海外トピックス

と述べていたが、メディアに訪日の意向と具体的な時期を明言したのは初めて。実現すれば1981年2月に訪日した故ヨハネ・パウロ2世以来、教皇訪日は2度目となる。

り、19人以上の犠牲者が出た。フィリピン国家警察のオスカル・アルバヤルデ長官は、日曜日のミサの最中に2回発生した爆弾攻撃で、兵士も含む19人が死亡、48人が負傷したことを明らかにした。イスラム教徒ミンダナオ自治地域当局者によると、即製の爆発物装置と見られる2個が間隔を置いて爆発した。

ミンダナオ地方では過去数十年間、イスラム教徒とキリスト教徒の間で武力紛争が起きている。ホロ島はスルー諸島の一角にあり、カトリック教会の代牧区が置かれている。

ミンダナオ島などでは21日、武装勢力『モロ・イスラム解放戦線』とフィリピン政府が合意した新たなイスラム自治政府への参加を問う住民投票が実施された。投票した住民約280万人のうちの過半数が住民投票を支持した。同国の選挙管理委員会は25日、住民投票の結果を承認した。（平瀬聡樹）

eラーニングのご案内

eラーニングを受講しました
讃美歌の深さを学ぶ

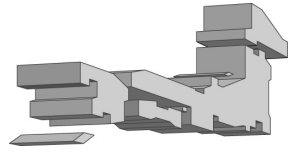


eラーニング担当 大津博子

今回は「学んで」歌う喜び——eラーニング「福音に生きる教会の讃美」を受講された藤本満先生（高津教会）の証しをご紹介します。
*
久しぶりに教会の働きに直結する、実のある学びに参加しました。不勉強をわびなければいけません……。
私は自教会の礼拝讃美の選曲を奏楽者に任せています。それは讃美歌の選曲に自分なりの偏りが強いことに気がついたからです。讃美の知識も乏しく、ある時を境に、限界を感じるようになりました。
インマヌエルが制作段階から関わった『教会福音讃美歌』を用いるように、新しい讃美歌が積極的に歌われるようになりました。新曲・新訳に会衆が惹きつけられていくのがわかりました。いつしか、「主の祈り」も会衆で歌うようになりました。

以前にまして選曲の幅が広がり、讃美の恵みが増していくのに対し、自分の知識の乏しさは変わりませんでした。詩や曲は気に入っていても、その讃美歌の意義や味わいには届かないのです。
そこで今回、『教会福音讃美歌』の主任編集者のお一人、また最も多くの曲の新訳に挑まれた中山信児先生を講師に迎えて、8週間の学びを企画し、私自身も、受講生となりました。
▼詩篇歌や宗教改革時代の讃美歌、それとは違って折り返しがついている福音唱歌との時代的な違い。
▼日本における『讃美歌』と『聖歌』の流れの違い。
▼『讃美歌』から生まれた『讃美歌21』の意義。
▼日本語の言葉の運びと英語の運びの違い。
▼「ヒム・エクスポージョン」と呼ばれる、二十世紀英国を中心とした讃美歌運動。
どの講義を聞いても、素人の私でも讃美歌の豊かな伝統・新しい可能性へと導かれる内容でした。毎週10分前後の動画を3〜4本。様々な資料を読み、受講生の対話に参加しながら、これほど実のある学びができるとは！
正直、一人の受講生の側に立つて、はじめて、専門の講師について学ぶことの喜び、またeラーニングのお手軽さを味わいました。未だ素人レベルの実質なのですが、まるで専門家になったかのよう、讃美歌の奥深さを味わいました。どんな講座も、一度受講してみたいかがでしょう。（藤本満）

国内教会局 スクエア



南日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

3月になり、年会を目前として
います。

新しく編成された南日本ブロッ
クの諸教会の歩みが主の恵みのう
ちに守られています。一年間に
わたる尊いお祈りを心より感謝い
たします。

また、さまざまな出来事も起こ
り、いろいろな課題も見えてきた
1年でもありました。これらの課
題は全国の教会にも共通するもの
もあれば、地方独自のものもあり
ます。そこで今回は、南日本ブロッ
クの全体的な近況報告とお祈り
の課題をご報告します。

1 災害について

災害が多い1年でしたが、中国、
九州地方では、毎年のように地震
や豪雨の災害が様々なところで頻
発しています。昨年は特に被害の
大きかった呉市では、呉教会がポ
ランティアセンターとなり、内山
忠信先生を始め信徒の方々も大変
なご苦労をされました。災害は時
が過ぎると報道もされず、忘れが
ちになるものですが、回復には想
像を超えるような多くの時間を要

出していければと願っています。

3 教会の高齢化について

教会の高齢化のためにもお祈り
いただければ幸いです。これは日
本全国共通の課題でもあります。特
に地方の場合は過疎化が都会と
比較して、早く進行しています。
さらに進学や就職のために地元を
離れる青年会員がいる教会もあり
大学を卒業しても地元には帰らな
いケースが多くあります。また、
牧師の高齢化が進んでいることも
あり、教会の働きを進めていくこ
とにさまざまな困難や苦労があり
ます。

2 教会間協力について

南日本ブロックの場合、距離的
に非常に離れている教会が多くあ
ります。ある教会では最も遠くの
教会に移動するまで7〜8時間ほ
どかかります。教団では各教会が
相互に協力し合う方向で働きが進
められています。しかし、なかなか難し
い状態です。しかしその中でも、
近くの教会で聖日には積極的に交
換講壇を行いながら相互の交わり
を深めたり、教会会以外にも自発
的に行うことがあります。小さな働きでは
あるかもしれませんが、教会間の
相互協力が進んでいることはとて
も素晴らしいことで、御名を崇め
ています。また、さらに相互協力
のための働きを進めていくことが
できればと願いつつ、互いに知恵
を出し合って、具体的な方法を見

4 伝道の働きについて

教会会などで、それぞれの教会
が心血を注ぎ、知恵を絞って伝道
に励まれているお証しを聞くこと
が熱くなります。教会の最も大切
な使命のひとつは、時が良くても
悪くてもみことばを宣べ伝え、一
人の人を求めて救われることです。
それぞれの教会を通して、伝道の
働きが進められ、救われる人が起
こされるようにお祈りいただけれ
ば感謝です。

*

最後に、教団では各教会が、愛
をもって仕え合い、相互に協力を
することが話し合われていますが、
私は祈り合うところ最もすばら
しい教会間の協力だと信じていま
す。どうか南日本ブロックの教会
のために祈りいただければ幸い
です。

東北ユースキャンプ

主から学ぶ信仰 次世代育成への挑戦に



秋田教会 神谷光一

今年で3回目となる東北ユース
キャンプは、教区の青年たちの交
わりの機会をと思い、仙台教会を
中心に、とにかく集まって食事と
レクリエーションを楽しむところ
から始まりました。毎回、冬の東
北ならではの雪の中のプログラ
ムが企画されてきました。

今回も、冬の集会であるがゆえ
に、冬季の屋内外の活動に十分な
設備とスタッフを擁する仙台郊外
のオーエンス泉ヶ岳が会場とさ
れ、また、青年に重荷を持つ教区
諸師により、夕べと朝の集会の中
で、それぞれにみことばが取り次
がれました。

夕べの集会では「本当の内なる
平和」と題してヨハネ一四章27節
から語られました。キリストが与
えようとするご自身の平安は十
字架の苦しみを前に、一人残され
てもなお父なる神の臨在が失われ
ないことによる平安です。それは
ゲッセマネの祈りに現された、ご
自身の素の願いと共に献げられ
た、みこころを祈ることを通して

与えられるものです。握っている
思いを手放すことで、ご自身がそ
の御手の中に握られた平安なので
す、と語られました。

翌朝の集会ではヨハネ一〇章7
〜11節より「イエス様に愛されて
いる」と題して語られました。羊
の門である主は、誰もが簡単に通
ることのできる救いに至る門と
なってくださいます。ご自身が十
字架に架かられた、その犠牲の大
きさは、私たちの一人ひとりの価
値がどれほど尊いものであるかを
示すものです。それは主が私たち
を大切に思っておられることの証
しでもあります。

今回は「ユース」の看板を掲げ
ながらも、未来の「ユース」であ
る子どもたちが参加してくれたこ
とで、教区ファミリーとしての要
素が加わりました。一方で、本来
の青年同士による交わりの深化と
いう点では、なお工夫の余地を残
すものとなりました。



巻頭言

生きることはキリスト



世界宣教局
野田 禎

年会の月となりました。心に通っているみことばは、ピリピ一章20〜21節です。「私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。」パウロは、何度も死を覚悟したことがありました。ルステラでは石を投げつけられ、死んだようになりまし。多くの迫害、多くの苦しみを通って、そしてローマの獄中から、愛するピリピのクリスチャンに手紙を書いています。死と隣り合わせのようなどころにいたパウロは、自分の限られた生涯において、何を望んでいたのでしょうか。

ひとつめは、どんな場合にも恥じることなく福音を語ることでした。ローマの獄中で、パウロはどこでも福音を語る機会を生かし、大胆に、知恵をもって福音を語っていったのです。残る生涯がどのくらいか分からないけれども、いつものように大胆にイエス様の福音を伝えて行きたい、そして多くの人をキリストのところに導きたいという願いを持っていました。ふたつめは、自らの身によってキリストがあがめられることでした。牢獄にいながら、どうやってキリストを崇められるでしょうか。パウロは獄中でも、喜びに満たされていきました。パウロはかつて、知らずに神様を迫害し、本当は滅びに行くべき者でした。それなのにダマスコ途上で復活のイエス様に出会い、異邦人への啓示の光として任命を受けたのです。

私が学生時代、年会の宣教会で、主が私に語りかけてくださったのも、冒頭のみことばでした。イエス様によって救われた喜び、感謝本来は滅びに行かなければいけなかった者が、そして、イエス様の十字架によって、再び新たに生きることが許された喜びを聖霊は教えてくださり、献身の招きに応え、前に進み出たことを思い出しています。

私たちの置かれた立場はいろいろです。しかし、私たちの置かれた立場、その身でキリストが崇められます。皆で手をつなぐようにして、私たちの身によって、この教団、教会を通して、キリストが崇められ、福音が地の果てにまで広がるように祈っていきましょう。



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬*2019年2月8日

香港は今年の春節(旧正月)を丁度終えたところです。2月5日が旧正月でした。しかし大陸の春運(春節期間の人の移動)は長く、15日まで続きます。香港では去年はバス事故のために突然中止となりましたが、今年は2日目の夜には「旧正月花火大会」がビクトリアハーバーで持たれた冬の夜空に23分間花火が打ち上げられました。そのような中、教会は今年の御言葉を握り、海外に起こされたインマヌエルの一枝として、一歩一歩、今年も使命を全うしようとしております。教会としての年間聖句は、イザヤ書三十七章31節の「下に根を張り、上に実を結ぶ」で、今年もキリストのうちに固く根ざし、御聖霊の導きの中、結実をと強く祈り願わされています。



ねることが許され、租界地があった頃のノルウエー宣教師による会堂が今も毎週礼拝で使われています。また公認教会の湖北省本部も見ることができました。27日には、第9回目となる教会総会を持つことが許され、丁度IGM台湾からのゲストもおられました。そのような今年の踏み出しでしたが、1月30日に教会創立委員の姉妹(90歳)を天に送りました。11月にキャリアを引いている女性にぶつけられ肩を骨折されリハビリ中でした。1月24日に家の方に訪問をさせて頂きました(写真)が、1週間後には天に帰られるとは思ってもありませんでした。寂しさの中、教会初めての百天者の葬儀に主の栄光を願っています。牧師たちの香港と広州との出入りは続いていますが、年々までのひと走り、引き続きお祈りに覚えていただけると幸いです。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年2月11日

巡回のため、お祈りを感謝申し上げます。

12月は板橋教会、1月は立川教会と翌日の関東新年聖会で報告の機会をいただきました。日本の教会でクリスマスと新年を過ごし日本語のメッセージと讚美に恵まれました。新年のご挨拶を「生で」するのも久しぶりで、どの挨拶をいつものタイミングでするのか少々混乱している自分に気が付きました。

以前テヌウェク病院にいられたことで親交が始まったご家族と関係者の方々が、年末から一週間近く日本訪問をされました。ご主人が麻酔科医、奥様が放射線科医、ご兄弟がビジネスマンと歯科医でそれぞれテヌウェク病院でご奉仕下さった方々とその関係者の方々が、当時は子供さん方も、献品の名前付けや宣教師の子供たちとの関わりや孤児院訪問等で助けて下さいました。放射線科医の奥様は、今もテヌウェク病院からアメ

リカに送られてくるCTなどの画像診断をして、長期滞在の放射線科医がいけないテヌウェク病院を助けて下さっています。

今回も病院への献品を持参して下さり、インマヌエルの教会を訪問され、日本の文化を体験される合間にお交わりも出来て感謝でした。過去にはアメリカのご自宅にも招いて下さいました。日本人教会でのご奉仕や宣教団体の本部訪問、元対日本宣教師の方々のお宅訪問など手配して下さいました。

以前「音ノート」「音ノート2」のブログを書いていました。しかし、運営元の変更とかいう通知が、メール事情のあまりよくないケニアに滞在中に届き始め、対応できずにいるうちに、閲覧も書き込みもできなくなっていました。今回ある姉妹の助けで、ブログの再開を許されました。「音ノート3」を設定しました。以下がウェページのアドレスです。
<http://otonote3.holy.jp/>

風邪やインフルエンザが流行っておりますが、健康も支えられています。

日本で成人式が祝われていたころ、ケニアで、有名店のオフィスなどがある地域のホテルが武装集団に襲撃され、日本でも報道されました。WGM宣教師から、直接の関係者は巻き込まれなかったと連絡が入りましたが、海外からの方々も巻き込まれたと聞いています。引き続きお祈り宜しくお願致します。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2019年2月6日

新しい年が始まりました。ザンビアの1月はまだ雨期です。雨は集中的に降りますが、晴れの日が続く日もあり、雨が降らないとすぐ乾燥します。雨量はますます、作物も順調に育っているようです。クリニックでは1月1日に生まれた赤ちゃんが3人もおり、お産ラッシュから始まりました。また外来ではマラリアに感染した患者が多く訪れ、マラリアが流行しています。治療薬も不足が出て、急きよ近隣のクリニックに薬を取りに行くということもありました。過去2年は、2年前に撒いた薬のマラリア対策が効果で、マラリア患者数は年間を通して20人いるかないかというところでしたが、今年はマラリア対策をしておらず、2年前に散布した薬も効果が切れたようで、日々マラリアのケースが見つかっていきます。大半のケースはある地域からの患者で地域性のマラリア流行のようですが、人は行き交っている

ため、一刻も早く対策を取るようにと区役所に話をしています。

1月中旬にあるスイスのNGOで母子保健をサポートしている団体の代表がジェンボクリニックを訪れました。新しい分娩棟もこの団体のサポートによって与えられたものです。その団体の働きが実際、現地でのように役立てられているのかを見に訪れました。ジェンボはサポートを受けている一つのクリニックですが、様々な面で良い結果を残していることからサポーターが訪問できる場所として選ばれました。そのための準備でやや大変な部分はありましたが、環境整備、報告レポートを整え、当日を迎えることができました。訪問者はジェンボ主任看護師の報告レポートを聞き、新しい分娩棟が大いに活用されているのを見て感動し、ジェンボを後にしました。産科病棟では双子のお産がありました。本来双子は病院でのお産となるはずですが、この妊婦は一度病院まで行きました。特に問題はないということで、もし問題があれば病院に来るようにと送り返されてきました。そのため、お産待機病棟でお産を待っていました。お産は順調に進み、2児とも元気な男の子で、2児とも出生体重が3キロ越えと双子にしては大きい子供たちでした。母子とも無事で、母親は産んだ翌日はやや疲労を見せましたが、2日後には回復し、約15キロ先の家に徒歩で帰って行きました。

12月31日に反対側の宣教師館で寝て、それから少し残りがある中でしたが根廻宣教師の所から移動を始めました。今は全てのもが移動し片付けも半分はできていますがまだ完全ではありません。残りの部分とセキユリテイルイトも何とかして頂きましたが、細かいたとこが残っていたりして自分で何とかトライしてみています。駄目だったらまた誰かにお願いするということ形です。洗濯機は、先週まで根廻宣教師の所をお借りしていました。新しい教会の転入についての確認指導を受け、1月13日には転入式で(新しく洗礼を受けた方々を受け入れる式とともに行われた)ルボンボ教会に会員として受け入れて頂きました。少しづつ慣れて会員として皆さんとともに礼拝に出席が許され、学びができることを感謝しています。

私たち自身の家のことについては、夜の警備員の方が助けて下さって感謝です。警備以外に家の



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2019年2月11日



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年2月13日

周りや畑をして下さってとても助かっています。以前の使用人が住んでいた家も電気などの不足の事や修理などして頂き、借家として整うようにしているところですが、教会で、与えられて責任をも果たしていきたくと思っていますのでお祈り宜しくお願いいたします。訪問団の準備のためにもお祈りください。

「主のおしえは完全で たましいを生き返らせ 主の証は確かです 浅はかな者を賢くする」

(詩篇一九篇7節)

ロザリス校での新学期が開始される直前に、常喜は短期集中講義のためにベンゲット州シニブシップにあるコーデイレラ校に一週間滞在し、「ダニエル書・黙示録」を一年生から四年生の学生7名と一緒に学ぶことができました。シニブシップは標高2700メートルに位置するため、空気は薄く、そして現在は最も寒い時期で夜は

8度位まで下がります。低地の暑い気候に慣れた常喜にとっては気温差が10度から20度になりますので、最近ではこの気候に寒さを覚えるようになりました。少し風邪を引いていましたが、健康に気を付けながら5日間のクラスを終えることができました。

現在、学生数の減少が祈りの課題となっていますが、そのような中でも1人、2人と毎年与えられていることは感謝です。日本の教会が建てた宣教師館で寝泊まりしましたが、屋根の軒裏が剥がれていたり、雨漏りで床が抜けたりと修理を必要としたため、責任者のホセ氏にお願いし修理をして頂きました。

ロザリス校の新学期が開始されました。今学期から4年生は自分の所属する教区の教会、または学校にインターンシップのために派遣されているため、学校の寮には1年生から3年生の学生が留まっています。4年生の人数が多かったこともあり、以前よりは静かになりました。常喜は、今学期「聖書解釈」を2年生に教えています。学生は5人で以前(15人、30人)よりも少ないのですが、学生たちとの距離感が縮まり、学生たちもよく質問してくれます。

マニラ日本語キリスト教会(MJCC)に依頼され常喜は礼拝での説教、恭子は教会学校で奉仕をしました。朝7時にロザリスを出て3時間かけてマニラに到着しました。礼拝では、特別賛美のプロ

グラムで教会学校の子どもたちが賛美し、我が家の子どもたちも予め知らされ、練習していたので参加し、大きな声で歌っていました。MJCCは現在担当牧師が不在のために、信徒が持ち回りで毎週礼拝の説教(正確には学びのシェアタイム)をしています。そんな中に1度、旧約聖書から説教をして欲しいという依頼がありました。今回は列王記からソロモンについて学び、説教をしました。



会計報告1月分

宣教献金 一、九五六、三三六円
月平均 一、九五六、三三六円

お祈りの課題

ケニア(豊田就子)

- ◆巡回奉仕が守られた感謝
- ◆今後の巡回が祝されるように
- ◆襲撃に遭われた方々のために
- ◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇章2節) 特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように
- ◆フィリピン(豊田)

- ◆学生たち(とりわけインターンシップの学生たち)がサタンからの攻撃から守られ、訓練と学びに励むことができるように
- ◆聖書大学での神学教育(聖書解釈)の奉仕のため
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られるように。子どもたちの学びのため
- ◆香港(鹿島)
- ◆10年目の歩みの中、一人ひとりに御言葉による霊的成長が与えられ、また新来会者が加えられてきますように
- ◆牧師夫妻の健康が守られ、香港と広州を往復する生活が支えられますように
- ◆香港と近隣地域での邦人伝道の働きが広がられますように
- ◆台湾(平瀬)
- ◆会堂移転のため、最善の地が示され、教会の一致が与えられるように。(8月までに移転)
- ◆春節を越え、通常の営みが再開。良き歩み出しとなるように
- ◆寒暖の差が目まぐるしい時期。私たちの健康と生活のみ守り、子どもたちの将来の導きのため
- ◆台南日本語礼拝の祝福とスタッフのため。(詩篇五一篇12節)
- ◆緊迫する国際情勢の中、政治や経済、治安が安定するように
- ◆ザンビア(富澤)
- ◆訪問団受け入れ準備のため
- ◆クリニックの働きに少しでも早く慣れますように
- ◆健康が支えられますように
- ◆ザンビア(根廻)

- ◆クリニックがさらに神様の栄光のために用いられるように
- ◆スタッフが心を一つにして働けるように
- ◆生活が守られるように
- ◆8月の訪問団の準備のために
- ◆カンボジア(豊田縁乃)
- ◆献堂式挙行に至るまでの主の御業を感謝し予定では4月12日
- ◆初めての梅田局長のカンボジア訪問とFCCとの交わりの祝福と共に、豊田の3月27日〜4月12日の滞在の見守りと健康の支えのため
- ◆伝道の拠点地を与えられた後のKCCが自立教会建設にむけて力強く前進する為に開かれている「弟子訓練」が祝され、彼らが用いられるように
- ◆ヴァンデイ師、グレッグ宣教師、マーク宣教師がビジョンの一致を確固たるものとして、全伝道者への模範と影響力をもって堅固に結ばれ、救霊のパッションに満たされるように
- ◆グローバルユースミニストリー(豊田康毅・由理)
- ◆5月に完成を予定している活動拠点グロリア・ティン・センター(GTCC)の建設が順調に進むように
- ◆GYMの使命を共有し、支える国際教会の設立に向けて動く中、必要な集会場、経済、人材等が与えられるように
- ◆宣教師の健康が強められ、働きを有効に進める知恵と恵みが与えられるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

イエスさまの目線の前で

院長 ● 河村 從彦

「主はふり向いて……見つめられた」(ルカ二一・61)

ペテロは思いだし、激しく泣きました。イエスさまの目線の前で全部わかりました。人に教えるもらう必要などありませんでした。

自己反省から、そうかなと思っ
ていることがあります。人は教え
られても、イエスさまによる納得
がなければ、教えてくれた人が去
るとやめてしまうということです。
逆に、忠実にやり続けるだけでは
自立的な奉仕がしにくくなります。
神学や牧会学など、現場で必要
と思われるものは教育的接点を通
して伝えられます。しかし人格を

尊重した、仕える牧会的接点も大
切です。現場に出ると、信徒との
間にそういう接点が求められます。

自戒を込めて、何であれ先に経
験すれば、後に続く人の足りなさ
は見えます。しかし経験値は必ず
しも福音体験ではないので、経験
だけで指導すれば、受ける側に
フェアでないというモヤモヤが残
ります。それを受け止めて行くの
も信仰ですが、伝える側にこそ、
感じ、祈り、見守る暖かさが求め
られます。かなり力が要ります。

年度の区切りを迎え、イエスさ
まの目線の前で思います。この1
年、指導する前に暖かく見守るこ

とができただろうか、あるいは必
要以上に手を出して混乱させたり
人として尊重できずに傷つけたり
したことはなかっただろうか。

この難しい時代、人間の心に関
する知識は指導に役立つという見
方もありますが、実は違います。
人が傷つく可能性がある不要な介
入を避けられるということです。

奉仕の備えをされるのはイエス
さまです。イエスさまの目線の前
に立てれば、それで十分なので
しよう。そして何よりも自らがあ
るイエスさまの目線を知らなけれ
ば、牧会的接点を取れる可能性は
ないような気がします。不完全な
ただ赦されただけの自分が教える
のと、一人の人がイエスさまの目
線の前に立つのとは、どちらが
人材育成という点でうまく行くか
そう考えると、指導はイエスさま
の目線の前では無駄な挑戦です。



オルガン棟を撤去した跡地、まもなく駐車場に

神学エッセー

「新約神学」という世界 ③最近の新約神学の成果



薦田崇志

に全ての福音書に記述はあるもの
の、背景や詳細部、文脈やエピソード
の意義について差異がある諸点
に問題意識を持たない傾向がある
そのような新約聖書全体としての
「統一感の欠如」に物足りなさを
感じ得ないという苦言も聞こえて
くる。著者間の差異を多様性とし
て扱うならまだしも、矛盾や反目
として提示されるならばなおのこ
と受け入れ難くなる。

前回はこの欄で、新約神学の著
者型のアプローチについて、その
特色までを紹介した。著者別に新
約聖書の神学を整理する利点は、
各記者の特色を丁寧な追うことが
許されるところにある。神が様々
な聖徒たちを靈感されて、福音を
記述するように促された事実を真
摯に受け止めて、各々の強調点や
表現、また関心の向けられる主題
を取り上げることが出来る学び方
である。そうすることで福音が内
包する多様性と豊かさをより鮮や
かに描くことが可能になる。みこ
とばが立体的に浮かび上がる学び
となる。

しかしこのアプローチの特質上、
新約聖書全体の統一感や、神学の
一貫性は必ずしも関心の対象とは
ならない。例えば各福音書に記録
(割愛)されている主イエスの誕
生の記録について、著者型のアプ
ローチは、その相違点を浮き彫り
にはしても、それらの調和を試み
るところまでは役割を果たさない。
あるいは「五千人の給食」のよう

の働き一七・10・11。

◆一年の学びの締め括りに

大丈夫、できる！

正規コース 秋田郁美

「獅子や熊の爪からしもべを救い出してくださった主は、このペリシテ人の手からも私を救い出してくださいませ。」

(「サムエル」一七・37)

今年度も残すところあとわずかとなりました。この原稿を書いている今はまだ課題の提出とテストが残っている時ですが、きつと無事に終わり、四月からの新学期を迎えることができると思います。多くの方々のお祈りに支えられたことを感謝します。

私のパソコンには、「課題」というフォルダーと「説教」というフォルダーがあります。「課題」の中にはこれまで提出したレポートなどが入っています。「説教」の中には神学院のチャペルでさせていただいたものや、教会でさせていただいた説教の原稿が入っています。両方のフォルダーともこの一年で数が増えました。今年度から正規生となり、それまでよりも多くの授業を取り、チャペルのご奉仕も増えたからです。こんなにたくさん課題をやることができたらどうかと不安になりました

が、これまで三年間でできなかったことはありませんでした。ダビデが巨人のゴリヤテを前にして冒頭の言葉を言ったように、私もこれまでの経験に支えられています。今でもできたのだからきつと大丈夫、できる！ それは主が助けてくださるという自信でもありません。

主とともに歩むとき、こうした経験が積み重なって人生の新たな課題にも勇気をもって立ち向かうことができます。学校の課題は提出期限があつて大変ですが、期限のない、終わりの見えない人生の課題はもっと大変です。主にある経験値を増やしていきたいと思えます。

牧師は言葉の仕事であり、書くという作業が大変多くなりますので、こうした訓練が与えられていることも感謝です。

◆信徒講座に参加して

十字架の御許へ

中目黒教会 赤石桂子

2018年度信徒講座春秋全講座を受講いたしました。

3年前の受講時から全講座をとりながら、今回は欠席もありましたが機会を得、感謝しています。【第一ペテロ書の学び】 林止弘師



1ペテロ二章15節、愛と真実な行いについて自己判断の善が先回りせず先ずは主に従う。自己の善の判断ではなく主が願われる善が最善であることへの注意深い判断の必要を示唆いただきました。【教会とは？】 矢木良雄師 教会を外から客観的に観察する観点を与えられ「教会とはお互い、それぞれに主によって罪赦された者であることがスタートラインにあり、尊敬・慈愛を愛の実践としての人々の集まり」であると。デニス・キンロー著「人の生活領域を超え存在される聖霊なる神を知り、信じて従う人々が共に集う共同体」と語られる意味も深く理解。聖餐式の新鮮な角度も拝見。【続キリスト教カウンスリング】 河村從彦師 他者への寄り添いの中で、悲しみ苦しみの傍らで何もできないこ

との認識、イエス様のみがターミナルケアがおでできる最善の方であることを徹底的に自己洞察すること、その中に自己の歪みを洞察できない事実をへブル四・12「骨髄の分かれ目さえも刺し通す光」聖霊のみ正しい分析がなされること。差別のない公平な主のお扱いそこに献身することを教えられました。【続聖書読解法】 河村從彦師 旧約の歴史文化背景全てが凝縮る過され、新約のイエス様誕生に至る聖書の全体像、TVの映像革命8Kの世界の様に自分では見えなかった聖書の角度を露わに見る経験。全講座を通し、徹底的なイエス様の謙遜さ、十字架の御許への謙りを重く学ばせていただきました。先生方の尊いご労に感謝。

◆信徒講座に参加して

恵みを知る

恵みの機会

大宮教会 渡辺結実樹

日頃から聖書の理解の乏しさを痛感していたので、もっと聖書を学びたいという願いから、信徒土曜講座を受講しようと思えました。この講座を通し、まず大切な聖書の読み方を教わりました。一つは、その書が何を言おうとしているのか全体を捉えようとするもの

で、もう一つは、前後の文脈を見ながら、本来の意味を正しく捉えようとするものです。また、その書全体や出来事、あるいは人物など、聖書をいろいろな角度から学ぶこともできました。毎回、新しい発見があり、主の恵みを知る機会となりました。最近教えられた神様の恵みの一つが「知らない恵み」です。ダビデがサムエルから油注ぎを受けたとき、それが王としてのものであることを知らされていないのです。もしこのとき若いダビデが将来自分は王となるのだと知ったとしたら、その後の彼の歩みはどうなっていたでしょうか。それでは自分はどうでしょうか。将来の自分の姿を予め知ったとしたら、自分の力を誇り、傲慢になり、逆に将来を悲観して神さまから離れてしまうかもしれません。もし祈りの結果が予め分かっていたら、特にそれが自分の望まないものであったら、その後祈り続けることができるだろうか。そういう弱い私たちのために、神さまは私たちの知らないところで事を進めていくのだと、私たちが最善の道へと導いてくださるのです。何という恵みでしょうか。知らされない恵みがあることを知り、感謝に溢れました。 このように、学びは毎回、神さまの恵みを新たに知る恵みの機会となっています。今後も継続して受講させていただき、聖書の理解を深めていきたいと願っています。

私の生涯を振り返って
火から取り出された者
15期生●小島正義



を防げず、病に倒れる子供たちが大勢出た。時には一日に何十キロも歩いた。大河に掛けた鉄橋を渡る時、鉄橋の線路に掴まりながら渡っていたその時、下を見て恐怖に襲われ、思わず線路から手を放してしまった。大河の藻屑となるその瞬間、一人の日本兵が私の手をしっかりと捕らえて引き上げてくれた。奇蹟的な生還であった。

満州行きは父の念願であった。父は満州の鉱山で働くため、家族を引き連れ夕張市から旅立った。私は未だ幼児で、両親に伴われ満州の地に渡った。満州での生活は最初は大変楽しいものであった。しかしまもなく涙の悲劇となった。

途中の宿営地では麻疹の集団感染があった。幼児が次々と麻疹で死に行く中、妹にも伝染、体が衰弱し病に耐えず、死を迎えた。悲しい経験であった。妹の亡骸に取り纏り、長い間泣き叫んだ。妹の亡骸は現地直ぐに荼毘に付された。葬儀もできずに、そのまま貨車に乗り込み目的地に向かわなければならなかった。

昭和二十年八月十五日の終戦は引揚者達の境遇を一変させ、悲惨な現実を突きつけることになる。最初に起こったのはソ連軍兵士が大挙して家に踏込んで来たことであった。憎しみと怒りで目を剥き出し、恐怖の形相で。その目的は三点。第一はアルコールで、酒類を探す。第二には貴金属、宝石金を探す。第三に若い女達で、自分達の性的欲求のため。女達は髪の毛を切り丸坊主にし、顔に煤を塗り男の姿をした。それでも大勢の女達が彼らの毒牙にかかった。

ウエスレーが愛唱したゼカリヤ書三章のみことば「この者は、火から取り出した燃えさしではないか」の如く、私は奇跡的に救い出された。人生は自分で管理するのではなく、神が管理される。生きてるのでなく、生かされている。

着の身着のまま我が家を出て、大勢の人々と合流した。大連港が目的地であった。そこから船で日本へ帰国する。大連まで様々な交通手段が使われた。石炭を積んだ無蓋の貨車、材木を載せた貨車での移動もあった。雨風や雪の寒さを

大連港での残留孤児たち。親から離れ、あるいは両親が死亡した子供は、集団で食事毎に各家庭をまわり、茶碗と箸を持って施しを受けた。日本に向けて大連を出港する時、残留孤児たちは一諸に乗船できなかった。地面に頭を擦り付け、泣き叫び、大声を出し「一諸に連れて行って、ここに置いていかないで」と必死に哀求していた。その姿は今も忘れられない。

同窓生の近況

43期生

久留米教会●吉村和記



「まさか九州!」が8年前の正直な私たち夫婦の感想でした。長男の高校受験、次男の中学入学、その他いろんなことが重なって、自分たちの気持ちの整理もおぼつかないまま久留米教会での働きがスタートしました。

教会から目と鼻の先に、お気に入りの公園があります。緑広がるその芝生に座って空を見上げる時、透き通るような青さに毎回感動します。「とにかく、青空が素晴らしいのです!」と、牧師会の仲間が力説するのですが、「先生、よっぽどつらいことがあったんですね」と笑われて、私もその発想に笑ってしまいます。豊かな自然やこちらで出会った先生がたに励まされて元気を頂いています。

今は、長男も次男も1人で暮らしています。春から小学5年生になる三男が教会隣の駐車場を横切って登校するのを2階の窓から手を振って見送ることから1日が始まります。教会の奉仕も信徒の皆様さんと一緒に取り組んでいます。今年の久留米教会の目標は「賜物共有」(1ペテロ四・10)です。

神学院スタッフ…恵みの想起

心から願うのは

学務課 馬場満子

学務課に勤務してからようやく1年が経とうとしています。先生方、神学生の方々の励ましとご忍耐を頂きながらの1年の感想を一言でいうなら、「溢れる恵みに感謝!」です。

まさに神学院という所は、神様から頂いた恵みの大きさを改めて知り、その恵みにどのように応答するかをあらゆる場面で具体的に学ばせて頂く場所なのだと思います。神学生の方々と共に、そこでご奉仕させて頂く者にも、主の前に在る姿勢を覚えて頂き、主の温かい眼差しを注いで頂くことで、少しでも主に喜ばれる仕事を、奉仕を、そして人生の歩みをさせて頂きたい、と改めて思う今日このごろです。「私たちが心から願うのは、主に喜ばれることです。」(コリント五・9)

学苑だより



●1日(金)に卒業式・終業礼拝が行われ、2名を送り出しました。
●4日(月)には入学審査が行われます。お祈りください。
●ペテルハウスについてのお問い合わせは学務課・馬場姉まで。

●旧家族寮とオルガン棟は解体され、駐車場として整備されます。
●本館屋根補修は4月に着工、5月の同窓会までに完成予定です。

●営繕ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹信雄先生にご連絡ください。
●神学院祈り会は12日(火)です。
●後援会から

●後援会の創立70周年記念感謝献金は恵みに対してそれぞれ感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。献金期間は5月末迄です。2月末で1千百万円が献げられ感謝致します。

●引き続き世話人のご推薦をお願い致します。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。1月の会計報告をさせていただきます。

1月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥962,800
教会団体による「神学院献金」
¥819,210
合計¥1,782,010
その他の献金(一時・特別)
¥101,000

・振替: 00230-0-10138

公報

本部通達

「神はどのような苦しみのときにも、私たちが慰めてくださいま...」

II コリント一章4〜5節

年度末の月を迎えました。今月上旬は、大切な第七回教会年會...

本部

5日(火) 年會初日午後 教團責任役員會(決算書承認) 第74次年會

すでに送付された年會招集状にありますが、全牧師は、5日(火)午後1時半までに...

財務委員会

第74次年會のための総予算は910万円で、その内798万円が教会分担金として計上されました...

▽単位法人格を持つ教会は、毎年法的義務として、毎會計年度終了後4か月以内(本教團の場合、通常4月末まで)に、宗教学法人の事務所に備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようお願いします...

▽国内教会局(全国B.A. 教区主事會議) 25日(月)〜26日(火) 於: 聖宣神学院

21日(木) 静岡教区女性大會 於: 静岡労政會館

▽世界宣教局 第74次年會には平瀬義樹宣教師(台湾)、鹿島義喜、理香宣教師ご夫妻(香港)が出席されます。

本部、宣教師館の献堂式準備などにもあたられます。お祈りください。

▽2019年、宣教師の帰国報告予定(詳細日程は未定) *根廻恵子宣教師(ザンビア)の巡回は2019年10月中旬〜2020年3月。

▽2019年、8月27日〜9月5日のザンビア宣教訪問団の参加者募集中です。 *関心のある方は局(担当)神栖教会 葛田敬子師)までご連絡ください。

▽IWF関係) ▽ブランドン・クバ宣教師は1月31日、無事に下関に赴任されました。 ▽ロビン・ホワイト宣教師は昨年12月に婚約され、今年4月に結婚式を挙げられます。祝福を祈りましょう。

▽2019年、宣教師たちの予定は以下の通りです。 *再赴任ホリー・ミュールハイゼン宣教師 2019年9月頃 *帰国報告 ロビン・ホワイト宣教師 2019年6月頃(5月まで奉仕が可能)

4日(月)〜5日(火) 若手牧師研修會 於: 年會会場(中高生課) ▽とにキャン・フェスティバル 東北・3月26日(火) 関東・3月28日(木) ▽とにキャン 日程: 8月13日(火)〜16日(金)

会場: 聖山高原チャペル 講師: 安藤理恵子師(玉川聖學院 中等部・高等部学院長) テーマ: Get Over ~翼を 使え!!! (イザヤ四〇・31) 聖宣神學院 ▽第66期卒業式・終業礼拝 3月1日(金) 午後1時30分開式 ▽入学審査 3月4日(月) 午前9時から ▽神學院祈り會 3月12日(火) 午後6時から本都會議室。奨励は内山勝先生。 ▽在校生の教会実習は3月31日(日)まで。新年度の教会実習は4月7日から始まります。 ▽入学式・始業礼拝 4月5日(金) 午前10時30分開式 ▽BTC 後援会からのお知らせ 創立70周年記念感謝献金は恵みに対して感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。 『世話人』の更新時期です。引き続きご協力をお願い致します。 また、推薦がまだの教会はぜひお加わりください。 ▽ベテルハウスのお問い合わせ・利用申込みは、学務課・馬場姉まで。

【申し込み開始】 2019年3月10日から http://grace-online.jp Webフォームからのみ申し込み、問い合わせとなります。 【受講期間】 8週間 5月7日〜6月25日 【受講料】 8週間で二万円(信徒は牧師承認が要ります)。IGM牧師、聖宣神學院生、信徒伝道者は補助申請あり。カナフェロシップ参加者には参加費割引を検討中です。 見識豊かな講師によるわかりやすい講義動画と、資料、ニックネーム受講による和気あいあいたたディスカッション!講師への質問コーナーもあります。世界のどこからでも受講できます! 印刷所: 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇C.C.ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

消息報告



和歌山教会の久保光彦師、せきな師ご夫妻に2月5日第三子、ご三女が無事誕生されました。お名前は「慈園(しおん)」さんです。祝福をお祈りしましょう。 教報PDFパスワード: 77903

GoodNewsを家庭にも 聖書新改訳2017の伝道版 新約聖書(定価453円)、また文字が大きい中型印刷なしが発行されています。それぞれ割引となりますのでご利用ください。 eラーニング新講座のご案内 「GoodNewsを家庭にも」 【講師】水谷潔師(本年カナフェロシップ講師)